



## 国連ミレニアム開発目標への 森林セクターの貢献に関する アジア地域交流

アジアの貧困は依然として極度のままです。世界の貧しい人々の3分の2以上はアジアに暮らしており、この貧困層の割合の多くは地方部にみられます。そのうち、より多くの割合ではないかもしれませんが、より極度の貧困はアジアの森林に暮らす人々の中に存在し、その数は4億5千万人にのぼると推定されています(アジア開発銀行 2003)。

アジアの森林に依存する貧困層は、国家の貧困削減戦略に組み込まれていない最たるものままです。さらに、特に貧困、ジェンダー、環境持続性、パートナーシップそしてグッド・ガバナンスに関連した森林依存とミレニアム開発目標(MDGs)との結びつきへの理解・認識の浅さも加わり、貧困削減の可能性を十分に生かしているとはいえないのが現状です。

アジア地域では人間の安全保障に前向きな影響を与えうる行動や政策の高まりがみられています。22パーセント以上の森林は共同体所有・管理化にあり、この数字は今日のアジア全域での地方分権化への動きとともに劇的に伸びていくとみられます。

過去20年間の地方分権イニシアティブの結果のひとつに、地域住民による森林・自然資源管理の採択増加があります。地域内各国でのこのコンセプトの浸透度合いは、その土地で行われてきた地域主体のプログラムの期間の長さや、国家により制定された政策枠組みに大きく依存しています。

アジア地域各国のコミュニティ・フォレストリーの現状は、「世代的」に直面する事柄に応じて大きくグループに分けることができます。インド、ネパール、フィリピンは共有資源の地域住民による管理を扱う政府プロジェクトの従事において最も長い歴史をもちます。次の「世代的」な国々には、政策またはプログラムがさまざまな度合いで制定されたカンボジア、中国、インドネシア、スリランカ、タイ、マレーシア、ベトナムが含まれます。ブータン、ラオス、ミャンマー、パキスタン、東ティモールは地元住民参加を自然資源管理に取り入れる試験的段階にあります。

地域構造、なかでも地域社会の役割と責任の認識が、効果的な自然資源のガバナンスに必須であるという意見の一致が地域内で高まる一方、いまだ多くの問題が残されています。森林セクターの多くの利害関係者たちは、地域社会による森林管理を、地方そして国家計画案に織り込む段階で苦勞しています。貧困削減と持続可能な森林資源利用の二つの役割を果たしうる地域社会による森林管理の可能性の明確な記述もまだ十分であるとはいえません。





アジア・フォレスト・ネットワーク(AFN)はおよそ20年の間森林と森林に関わる人々の問題に取り組んできました。現在、AFNは、地球環境基金の支援のもと、**国連ミレニアム開発目標(UNMDG)への森林セクター貢献に関するアジア地域交流 (AFMDG)**の促進を行っています。この12ヶ月にわたるプロジェクトは、ミレニアム開発目標と人間の安全保障に対し、森林セクターがどのように貢献できるかについての交流を助成することを目的としています。この交流は参加型のフィールド研究と、アジアの地域社会、政策決定者、計画従事者、そして市民団体を招いた国際会議によって行われます。

AFMDGのもとでAFNは次のことを行います：

- ◆ 国連ミレニアム開発目標への森林セクター貢献に関する地域会議
- ◆ 人間の安全保障のための参加型土地利用計画フィールド・ワークショップ
- ◆ アジア3カ国(フィリピン、インドネシア、タイ)における地域ガバナンスと住民による森林管理実践の調査

#### 地域会議

国連ミレニアム開発目標への森林セクター貢献のに関する地域会議は、タイのバンコクで2006年11月末に開催される国際会議です。この3日間にわたる会議は、カンボジア、インド、インドネシア、日本、ラオス、マレーシア、ネパール、パキスタン、フィリピン、スリランカ、東ティモール、タイ、ベトナムから選ばれた中央・地方政府、そして市民団体を代表するおよそ30人の参加者を対象に計画されています。

会議は3日間にわたり、1日の森林地域見学と2日間のパネルとワークショップ・セッションが含まれます。ワークショップ・セッションでは、どのような森林土地管理が貧困削減を促すかという点に焦点が置かれます。その際での意見交換の場は、参加者が自国での住民主体の自然資源管理の対応に利用可能な手段を学ぶことができるよう構成されています。参加者は地域内での必要性と、国益そして地域・世界共通の利益とのバランスの均衡をとる上での自分たちの役割について、そして自分たちの活動が人間の安全保障と国連ミレニアム開発目標にどう貢献するのかについて話し合います。

#### フィールド・ワークショップ

人間安全保障のための参加型土地利用計画のフィールドワークショップでは、アジアの人々が地方政府と市民社会が環境を管理する際に直面する促進・障害事項を検討します。5日間にわたるこのワークショップは、自然資源管理の権限のいくつかを地方政府に分散する政策を制定した最初の国々のひとつであるフィリピンで開催されます。フィリピンの地域利害関係者は、東南アジアの隣国の人々同様、土地利用計画作成と自然資源管理条例の制定の際、人間の安全保障にも影響を及ぼす問題に直面しています。このフィールドワークショップは、東南アジアの地域社会、地方政府、援助団体に貧困地域または先住民に関わり、参加型土地利用計画と管理のスキル取得を迫及する参加者15-20人を対象とします。

#### 森林と貧困削減の研究

貧困削減のための森林の調査評価は、アジア・フェローシップのもと、インドネシア研究員と共同で行われています。この研究では、3カ国(フィリピン、インドネシア、タイ)における経験について、現地訪問と各国パートナーとの提携を通して調査を行っています。

